

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学分野・看護管理政策学領域
学籍番号		院生氏名	末永陽子
通学キャンパス			
論文題目	災害により生活基盤を失った被災者の人生の再構築に及ぼす要因 ～発災から5年間の経時的変化に伴う要因の特徴～		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1) 本研究は、東日本大震災による予期せぬ生活の基盤の喪失によって人生に変化が生じた被災者を対象とし、人生の再構築に影響を与える要因を明らかにすることを目的としている。本論文は1章から3章で構成されており、【第1章】では、災害における被災者の人生の再構築に影響を及ぼす要因の特定のために、東日本大震災体験をした8名を対象に、Meleisの移行理論を用いてインタビューを行い、その結果から人生の再構築に影響を及ぼす要因を導き出している。【第2章】では、災害における被災者の人生の再構築に影響を及ぼす要因の特徴を明らかにするために、インタビューの質的分析で導き出された人生の再構築に影響を及ぼす要因の重要度を発災から発災半年、発災半年から発災3年、発災3年から発災5年の時期毎にリッカート法で測定する質問紙を作成している。253名から回答を得て、因子分析、共分散分析を実施している。因子分析では、発災からの時期毎に影響要因を抽出し、各時期の全体のCronbach α は0.844～0.890を示しており、信頼性が確認されている。共分散分析では、発災から各時期の再構築モデルが示された。</p> <p>【第3章】では、被災者の人生の再構築を支える看護について、発災の各時期において、孤独死の防止、生活機能の低下防止、生活習慣予備軍の増悪防止、コミュニティの構築の支援などが総合考察として挙げられた。</p> <p>2) 研究方法、倫理的配慮については特に問題はなかった。</p> <p>3) 本論文の新規性は日本における災害看護の中では希少である被災者を対象とした研究であることであり、独自性は被災者個人の人生の再構築に焦点をあてたところにある。</p> <p>2. 審査会は1回開催し、口頭試問の結果、指摘事項に従い論文を修正する事、論文の再提出後、修正内容を確認し、その結果によって合否を判定することとし、審査会では合否は保留となった。</p> <p>3. 口頭試問においては、審査員からの質問に対してやや冗長な応答もあり、適切さに欠けるところもあったが、指摘された点については論文の修正により判定することとなった。</p> <p>4. 修正論文を審査員で確認・精読したところ、指摘した点への修正が十分にできており、それ以上の修正は必要なしとのことで合格と判定した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 白石 裕子</p> <p>副 査 後藤 純信</p> <p>副 査 西田 裕介</p>		